



申4号
9月22日付

フレキシブルタイム頼りの 作業ダイヤで良いのか？

「柔軟な働き方に向けた長岡統括センターの体制見直しについて」に対する申し入れ

東日本ユニオン新潟地本は、9月10日に申1号「柔軟な働き方に向けた長岡統括センターの体制見直し」に対する解明申し入れの団体交渉を行いました。

この交渉で、支社側からフレックスタイム制における働き方や勤務の取り扱いなどの考えが示されました。しかし、鉄道オペレーションを遂行する上での具体的な作業ダイヤは明らかにされませんでした。

また、長岡駅（輸送室）においては10月1日施策実施後の作業ダイヤがフレキシブルタイムの社員頼りになっていることが明らかになりました。

「柔軟な働き方」「働きがいの向上」を目指すとした、新潟支社の施策とは乖離があるため、新潟地本は緊急で申し入れを行いました。

～ 上中越支部 第15回定期大会 代議員の発言から ～

- ・現在は、泊3勤務・日勤1勤務の作業ダイヤである。施策実施後は、泊勤務が2分割のフレックスタイム制となる。コアタイムの前後に2時間のフレキシブルタイムが付いている。コアタイムの開始・終了が深夜になるダイヤが柔軟な働き方となるのか？
- ・「留置車両計画」を行う業務への見習いが諸事情によりできていない。フレキシブルタイムで行うとの話もある。このまま実施されると夜中は1人作業となる。知識がないと非常に不安。体制が整う春ごろからの施策実施でも良いのではないのか？

■ 申4号 申し入れ項目 ■

1. 長岡駅（輸送室）において、作業ダイヤ及び要員を増やすこと。
2. 団体交渉は2025年9月30日までにを行うこと。

「柔軟な働き方」は、余裕ある要員・ゆとりある作業でなければ実現できません！